

R1.11.19 浜崎小学校学区説明会概要(質疑応答)

日 時 令和元年 11 月 19 日(火)午後 7 時から午後 8 時 45 分

場 所 下田市立浜崎小学校体育館

出席者 保護者：60 人

市教委：佐々木教育長、土屋(仁)課長、和泉参事、平川課長補佐、土屋(大)指導主事、
土屋(真)主査、佐々木統合企画主任

質疑応答

<保護者>

通学の自転車とバスの 2 km から 4 km との境について、隣同士で境目になってしまう子はどのようにするのですか。

<市教委>

どこかで線は引かなければなりません、今ここで即答はできません。下田ポートサービスあたりを境に通学方法が変わってきます。もしかしたら、どこかを境に変わってくると思いますが、現時点では 2 km と 4 km が境目になっております。

<保護者>

路線バスでの通学について、下田駅まで行って乗り換えになるのですか。もしくは直通になるのですか。

<市教委>

須崎線は路線維持困難路線になっているため、白浜方面から来る路線バスに乗り換えてもらう方向になるかもしれませんが、今後東海バスとの協議になると思います。

<保護者>

自転車通学対象者について、雨の日はどうするのですか。

<市教委>

正直なところ結論は出ていません。案の段階では、雨の日だけに回数券を支給するのか等、また、保護者の送迎は許可しない方向で考えています。今後、検討させていただきます。

<保護者>

小学校は、学区外に自転車で行っていけないことになっていますが、中学校になった途端、自転車で通う形になります。親としては、いきなり自転車通学になったことを了解して、危険を承知で自転車で行けと言うことになるのですか。

<市教委>

完璧に安全かと言われると困りますが、より安全なルートを通って、通学していただきたいと考えております。今の心配は充分考えられますが、現在の下田中や稲梓中は自転車通学を行っています。心配な面はありますが、子どもたちの安全面の教育と成長を勘案し、見守りながら自転車通学を行っている部分もあります。全て安全かという言い切れない部分もありますが、これまでの例を考えながら、子どもたちへの指導、地域や保護者の方に危険個所に立っていただくなどの方策を考えながら検討していきたいと考えています。

<保護者>

自転車通学、県では自転車通学の保険が義務付けられています。新中学校開校に向けた対策は。

<市教委>

2019年10月から賠償責任加入とヘルメット着用が義務化されました。上限額1,000円で1/2補助といった内容、中学生全員を対象とした補助制度を創設しました。

<保護者>

バス通学、自転車通学、2km4km柿崎の浜條地区は自転車通学になります。もし、東中が存続した場合、東中へは大変近い地域です。柿崎神社付近は自転車だが、それ以外はバス。そうなる、昨日まで一緒に登校してきた生徒は、新中学校になると通学方向が変わります。2年前の説明会で言っていることと説明が同じです。その時質問したことに対する佐々木教育長の回答が、2年間あるので慎重に考えていきたいという答弁も同じです。この2年間、全く検討されていないのでしょうか。

<市教委>

これまでは、ウィークデ一定期でしたが、今後は365日定期。もう少し煮詰めていかないと決められない部分でもあります。地元としては異変心苦しいところです。浜條地区はおそらく3分もあれば東中に着きます。それが今度、自転車で行くと30分ぐらいかかってしまう。しかし、どこかのラインで線を引かなければなりません。その際、バスを選択されても財政的な負担が厳しい部分があります。4km未満の方は歩いていただいている状況もあり、そういった部分を踏まえると全員の方のご理解をいただくことは厳しいと感じております。

<保護者>

変えることは可能ですか。

<市教委>

2年前ですので、おそらく切羽詰まっていなかった状況もあったかもしれませんが、現時点では、手続き、財政的な裏付けが必要ですが、変えることが可能な部分はあると考えております。しかしながら基本的な方針部分については崩さない形になると思われま。

<保護者>

強行突破ではないでしょうか。

<市教委>

強行突破という言われ方もしますが、おそらく全員の方のご理解をいただくことは難しいと考えています。答えになっていないとは思いますがご理解ください。

<保護者>

下田中学校で実際に自転車通学している方を知りたいのですが。

<保護者>

現下田中学校の保護者の者です。現状では、中、丸山、赤間、吉佐美、大賀茂地区が自転車通学の地区となります。現状下田地区からは0人。吉佐美大賀茂地区は、20名前後。保護者の方に伺ったところ、雨の日はどうしているかという問いに対し、車で送迎しているとのこと。理由としては、雨の日は滑って危険なためとのことでした。

<保護者>

この意見を聞いてみても、自転車で行かせるのですか。

<市教委>

50人程度の登録がある中で、実際は20人程度の利用だと思います。雨の日に自転車は厳しいと考えております。国の基準だと中学生は6km以上ですが、下田市は4km以上に市の負担で出す方

針です。4 km 以下は徒歩となっているのですが、下田市は2 km— 4 km を市の単独補助として自転車の購入補助を出さしてもらおうと考えています。

<保護者>

危険のリスクが高いと思います。そういった部分を考えたら、子どもを守ると言っている割には、財政的な理由で…。正直どっちなのですか。

<市教委>

財源の部分も決して無視できない部分です。

<保護者>

そうであるならば、統合しなくても良いのではないのでしょうか。

<市教委>

統合は決定したことで、今回は通学の話になります。統合はそもそも子どもの教育環境のためです。しかし、全ての安全確保という面では難しい部分も出てきます。保険の補助や反射材を購入するなど、策は講じていかなければいけません。なおかつ、安全なルートを通学していただきたい。実際には100%の安全が確保されているわけではないか、ソフト面でお祈いしながら安全確保を模索していきたいと考えております。また保護者の方にも立っていただくなどの方策が必要だと考えております。

<保護者>

下田中学校は、下校ルートは、旧町内、西東本郷は、敷根を通る道と岩下を通る道を使っていますが、新中学校になったら、どちらを使いますか？

<市教委>

道幅等も踏まえると自転車の場合、敷根経由を想定しています。

<保護者>

国の制度以上の補助を考えておられますが、近隣の市町では、市の独自の補助をしています。西伊豆、松崎、伊豆市は2 km以上に全額補助を出しています。通学補助に関する具体的な検討スケジュール、安全に対する課題解決のスケジュールの説明をお願いしたいです。

<市教委>

他市町、伊豆市、西伊豆、松崎はそれぞれだが、それぞれに財政事情があり、なかなかよそがやっているから下田もというわけにはいきません。慎重に考えていかなければいけないので、通学補助に関しては2019 度中の結論は難しいと考えています。国道、サガミシード近辺の拡幅を計画があり、そこから手を付けて欲しいことは、県にお祈いしており、県も動いていただいております。

<保護者>

浜條地区にバスの補助が出ないのはこの話し合いで分かりました。須崎の子はバスで行くが、私の娘は自転車。雨風が強いときは送っています。中学生になって少し体が大きくなるだろうが、中学生になったからと言って、駅前や敷根の坂道を登っていく。帰りは、暗い中下校してくることを考えると…。やはり、登下校時の安全面のこと、様々な危険がある中で、どこかで境を付けなければいけないとは思いますが、子どもたちの安全を第一に考えて決めていただきたいです。こども園の時は、距離の問題で金額が変わっているのがわかりました。その時は納得しました。今回の中学校の補助のことについては、365 日支給されるが、4 km以下はバス補助が出ないのは納得できません。第一に子どもたちの安全を考えて、全額バス代を出してほしいというのは無理だとは思いますが、少しの補助額でも出してもらえような方向を模索して欲しい。財源が厳しいのはわかるが、子ど

もの安全を第一に考えて欲しい。

<保護者>

家からだとも4 km、バス停だと4 km以内になっています。どちらか選べることはできないか。女の子が一山超えて自転車で通学するのは無理だと思います。無理です。

<市教委>

そういった事もあり、電動アシスト付きを考えた経緯があります。